

平成 30 年度 国際理解ワークショップ 進行シート

作成日： 2018 年 8 月 2 日

大学名： 新潟大学

タイトル： とつげき！世界のへんな食べ物

1：本ワークショップの要旨

世界の食文化を中心に、海外の食べ物、気候、暮らしを紹介する。日本と異なった文化、特に珍しい食文化を紹介することで、異文化について考えるきっかけとする。またグループワークを通して、異文化と向き合う姿勢を学ぶ。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

世界の食文化を通して、「みんな違ってみんないい」という考え方を伝える。クイズやグループワーク活動のなかで、多様な意見を共有する。衝撃的な食文化、一見へんだと思うような食文化を通して、異文化の存在を意識し、食文化の背景にある気候や宗教、伝統などを理解する。そのうえで、日本の食文化が海外からどのように見えているかを考えることで、多様性の理解を深める。

3：本トピックをとりあげる理由

現在、日本国内において多くの国からの移民や観光客が訪れている。異文化理解は社会を生きていく中で必要不可欠なものである。食文化という親しみやすいトピックを取り上げ、多様な異文化を身近に感じてもらうとともに、その背景にある食文化の成り立ちを理解することで、異文化理解を進めたい。

4：活動過程 (使用時間： 90 分 参加人数：)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
--------------	------	--------------------	-----	---------------	---------------------

<p>導入：起 (15分)</p>	<p>世界のへんな食べ物紹介(クイズ形式)</p>	<p>世界の特徴的・へんだと思われるような料理を紹介する。おもにその料理が食べられている国を4択のクイズにする。また、クイズを行うときに学生は国名が書かれたカードを持ち生徒は正解だと思う国名の学生のもとに移動してもらう。 クイズの後、その料理が食べられるようになった背景を紹介する。</p>	<p>アイスブレイク</p>	<p>スライド 国名の書かれたカード(学生が持つもの)</p>	<p>移動中のけがに注意する。 場所を選べない生徒が出てくる可能性を考える。</p>
-----------------------	---------------------------	---	----------------	-------------------------------------	--

<p>展開：承 (15分)</p>	<p>日本のへんな食べ物紹介(クイズ形式)、 前半のまとめ・後半に関する説明</p>	<p>4 択形式のクイズを用いて、日本の食文化について再度考える機会をもつ。また、ここでのクイズは4つの食材の中から挙手で1つ、日本で食べられている食材を選んでもらうという形式をとる。加えて、食べられるようになった理由・背景も紹介する。 その後、前半のまとめ・後半の説明を行う。</p>	<p>アイスブレイク (日本の食べ物も海外から見たら、驚かれるようなものであることを紹介し、異文化理解に繋げる)</p>	<p>スライド 食材の描かれたカード</p>	<p>比較的簡単な食材を選ぶ。 グロテスクなものは避ける。</p>
-----------------------	--	---	--	----------------------------	---------------------------------------

<p>発 展 : 転 (30分)</p>	<p>グループワーク</p>	<p>「家に外国出身の友達が遊びに来た」という設定にする。そして、日本の料理をベースに外国の食材を組み合わせて、オリジナルの料理を作り、簡単に発表してもらおう。</p> <p>なお日本の料理は、くじびきで各グループに1つ決め、外国の食材に関しては、事前に用意しておいた封筒の中から好きなものを選んでもらう。</p>	<p>実際にどんな味がするのか、などを考えてもらい、海外の食材をきっかけに異文化への興味を深めてもらう。</p>	<p>カード（日本・外国それぞれの料理や食材のイラストを描いたものを用意） くじ（日本の料理名を記載） お皿のイラストの描いた画用紙 カラフルなマジックペン</p>	<p>変な食べ物にこだわらず、味の創造しやすい食材や料理を選ぶ。</p> <p>グループごとにカードを変えて、いろいろな意見が出るようにする。</p> <p>封筒の中身は、なるべく被らないようにする。</p> <p>発表しやすい雰囲気をつくる。</p>
<p>まとめ : 結 (5分)</p>	<p>まとめ</p>	<p>今回のワークショップを振り返り、話を簡単にまとめる。</p>	<p>「みんな違ってみんないい」ということを理解してもらおう。</p> <p>さらにグループワークを振り返り、異なるもの同士で新たなものができた経験から、工夫すれば異なる文化とうまく付き合う方法を考える機会とする。</p>	<p>スライド</p>	<p>時間配分に気を付ける。</p> <p>客観的な話になるように心がける。</p>

5：会場のセッティング

5～6 人でのグループワークを行う。移動式の〇×クイズを行うので、ある程度広く机がない場所が望ましい。またパワーポイントを使用するので、スライドを映せる場所の確保が必要である。

6：使用する教材

7：参考にした資料

8：その他

本人が海外とのつながりが深い、家族に外国の方がいらっしゃる等、配慮が必要な場合はお知らせください。